

第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和8年3月24日（火） 午前10時00分～11時15分

会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室

出席委員：藤井尚子会長、神谷紀彦副会長、石田博久委員、鈴木墨委員、
平井明樹夫委員、村松千香子委員、矢島利充委員

欠席委員：鈴木ヒエン委員、樽松立子委員

事務局：中村美紀UD・男女共同参画課長、平澤啓樹課長補佐、小杉泰司UD推進
グループ長、太田俊樹、柳井千尋、河嶋美夏

傍聴者：なし

会議録作成者：UD・男女共同参画課 河嶋

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：無）

《会議次第》

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報 告
 - (1) 令和7年度ユニバーサルデザイン事業実績について
 - (2) 令和7年度ユニバーサルデザイン意識調査結果概要について
- 4 その他
- 5 閉 会

《配付資料》

- ・資料 1：令和7年度ユニバーサルデザイン事業実績について
- ・資料 2：令和7年度ユニバーサルデザイン意識調査結果概要

《会議の経過》

1 開会

（事務局）

令和7年度第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。本日は、樽松委員と鈴木ヒエン委員が都合により欠席である。

2 会長あいさつ

藤井会長挨拶

3 報告

（1）令和7年度ユニバーサルデザイン事業実績について

（事務局）

「令和7年度ユニバーサルデザイン事業実績」について報告

(鈴木委員)

UD講師派遣と企業のUD出前講座について、受講者数が減っているのは少子化の影響があるのか。

(事務局)

講師派遣プログラムは例年10～15回、企業のUD出前講座は20～30回なので極端に減っているというわけではなく、横ばいという認識である。

(藤井会長)

新規事業「夏休み親子UD企業探検」の78名はどのような方が参加されているのか。

(事務局)

小学校4～6年生の親子を対象にした。学校の総合の時間でUDについて学んだから参加したという声が多かった。また、企業によっては親が見学したかったから、という声もあった。

(藤井会長)

子供たちへの動機付けと、保護者にも興味をもってもらう場所を選んでいくことは良いことだと思う。そのような内訳が分かったら更に良いと思う。

(事務局)

参加者へのアンケートで把握するよう努めたい。

(村松委員)

来年度から浜松市の小中学校でラーケーション制度が導入される。夏休みは他の事業プログラムとも重なることが多くなると思うので、UDを学ぶ目的でラーケーションを利用するプログラムを作ってはどうか。

(事務局)

確かに、夏休みは他のプログラムとも重なることが多い。しかし、あえて夏休みにやるのは、課題や自由研究のネタに使うと欲しいということと、親子でUDについて関心を持って学んでいくひとつのきっかけにしたいということもあり、夏休みに親子でという事業プログラムにした。

(2) 令和7年度ユニバーサルデザイン意識調査結果概要について

(事務局)

「令和7年度ユニバーサルデザイン意識調査結果概要」について報告

(平井委員事前質問票①)

「未来まで続く安全・安心な“まち”」の指標について、事業所の目標達成率は上々だが、“暮らし”に関しては目標未達となっている。情報発信の充実が必要ではないかと思うが具体策は検討されているか。

(事務局回答①)

“くらし”については、前回の調査よりも満足度が低下していることがわかった。ここで具体策を示すことはできないが、この調査結果を基に今後の施策や計画に、改善するための方策を入れていく。

(平井委員事前質問票②)

「誰もが互いに思い合い、認め合うところを育むためにどのようなことが必要だと思いますか」について、自由記述であったか、それとも選択式であったか。

(事務局回答②)

選択式である。

(平井委員事前質問票③)

「誰もが暮らしやすい“まち”づくりのためにどのような事が必要だと感じますか」について、なぜコミュニケーション（対話）が選択肢になかったのか。

(事務局回答③)

施設や設備などのまちづくりに関する設問のまとめとなる設問なので、ここにはコミュニケーションは入っていない。問5の選択肢のなかに「様々な人との交流の機会」があり、ここでコミュニケーションに対する意識を確認している。

(平井委員)

全てをハード整備で解決するのは無理なので、心のユニバーサルデザインが重要である。UDが当たり前になりつつある現在は、その先のステージを考える時期に来ているのではないかと思う。

意識調査も次のステージに行くべきなのではないかと思い、このような質問をさせていただいた。

(事務局)

今後の参考とさせていただきたい。

(矢島委員)

国の指針では心のバリアフリーをうたっているが、なぜ浜松市は心のユニバーサルデザインと呼称を変えているのか。

(事務局)

バリアフリーは、目の前にある障壁を取り除くこと。ユニバーサルデザインは、あらかじめ誰もが使いやすいように配慮すること。結果は同じかもしれないが考え方が若干違う。

(矢島委員)

国の指針と表現が異なることについて、障害当事者へ説明をお願いしたい。

(平井委員)

つまり、矢島委員はまだ多くのバリアがあると認識されていて、バリアフリーがユニバーサルデザインに変わると、今あるバリアのことが忘れられてしまうのではないかと危惧されているのだと思う。

行政としてバリアは認識しているうえで、ユニバーサルデザインの名のもと施策を進めているという話を期待しているのではないか。

(事務局)

市の公共施設の整備に関しては、公共建築物のユニバーサルデザイン指針がある。公共建築課では、当事者、利用者の意見を聞いて、それを反映していく形で見直しを行っている。

当事者への説明については検討する。

(鈴木委員)

「顧客満足度を向上させるため、どのような点を重視していますか」の回答に「品質」が多いのは、この地域は物づくりの会社が多いからなのではと推察する。

また、「UDを取り入れていない理由は何ですか」の回答上位を見ると、商品開発系が多いのかと推察する。企業向けUDのガイドラインがあれば、意識や満足度が変わってくると思う。

(事務局)

今後、調査結果を分析していく。

(石田委員)

回答のなかで公共交通機関についての意見をいただいているので、運輸事業者として改めてがんばらなくてはと思った。

また、「鉄道、バスなどの公共交通機関について、利用しやすいと感じますか」の設問に「わからない」という回答が多いのは、自家用車で移動する人が多いので、普段は公共交通機関と接点がないことが要因かと思われる。

4 その他

鈴木委員が所属する浜松未来総合専門学校と市の協働事業として、生徒によるUD学習を支援するためのデジタル教材の制作が進められており、制作途中の作品を視聴した。

5 閉会